

サマープログラム 体験談

外国語学部英米学科 甲斐 彩華

1. サマープログラムを申し込んだ動機について

私がサマープログラムへの参加を希望した理由二つある。まず一つ目は、他国の文化や価値観、土地の雰囲気に触れたいと思ったからだ。

もう一つの理由は、全く言葉の通じない不便な状況で生活したいと思ったからである。普段、日本で暮らしていると、気付いたらあつという間に時間が過ぎていたり、とても楽な生活している。一度不便な環境に飛び込むことで、自分のコミュニケーション能力や英語力をなどの向上にむけて、様々な問題に挑戦したいと思った。

高校生の時から海外留学をしたかったので、長期休暇を利用したこのプログラムは夏休みをとっても有意義な時間にできると思い申し込んだ。

2. 現地での語学コースについて

○参加したコース(レベル):

Upper-intermediate

○コースの内容(授業内容、良かった点、悪かった点、反省点、感想など):

クラスは三つに分けられ、各クラスに日本人、韓国人、中国人、スペイン人の学生がいた。一週間でクラス替えがあったが、最後の週は熊本学園大学のみでの授業になった。グループディスカッションが主な活動で、ライティング、リーディングはグループで話すための練習として行われた。内容はスポーツやファッションなどで難しくなかったが、分かっているようで、勘違いをして覚えていたことなどがあったため、とてもためになる授業だった。

他国の英語学習者と一緒に勉強していく中で気づいたことは、国によって英語の話し方(発音など)が異なることだ。私は中国人の話す英語がとても聞き取りづらかった。Sの音をこもったように発音するからだ。一番わかりやすかったのは韓国人の英語で一語一語丁寧に発音するところが日本人学生に似ているからだと思う。

一週目の最後に、帰国する中国人学生に、日本から持ってきていたワンピースのグッズを渡したら喜んでくれたのでよかった。

反省点は、一週目は日本人が自分一人だけの状態がほとんどだったが、最終週は学園大生だけだったのもあり、授業中に日本語を使ってしまうことが多かったことだ。また、私はスペイン語もIVB まで学んだので、同じクラスのスペイン学生に少しでもスペイン語で会話してみたかったが、あまり話す時間を作れなかったのも後悔している。

スポーツの週の授業内でレーザーシューティングというものをした。これは二つのチームに分かれて、レーザー銃やチョッキを装着して、チームを撃ちポイント獲得して対決するゲームだ。日本ではメジャーではないが、とても楽しかったので、後日学校終わりに友達ともう一度しに行った。イギリスの学生の遊びを知ることができた。遊びといえばカラオケもあって、ローマ字で”KARAOKE”と表記されていた。

○授業の一環の小旅行に対する感想:

授業で行った都市は何処もそれぞれの特徴があり、イギリスの最先端のデパートが立ち並ぶ街並みから、古代からの遺跡が残っていて歴史を感じさせる街まで、様々なイギリスを見ることができた。また、前日の授業でその都市について学び、ある程度の知識を持った状態で観光できたので、有意義な一日を過ごすことができた。また、旅先で使えるバス乗り放題チケットや、ボートの乗車券、カフェの割引券などを準備してもらっていたので、プランが立てやすかった。

3. 宿舎について(良かった点、悪かった点、感想など)

私が泊まった宿舎は4人用で、リビングルームは十分な広さだった。暖房がついており、比較的快適に過ごすことができた。キッチン設備も揃っていて、自費で購入したのは、かなだわしと生ごみ用の大きいごみ袋だけだった。キッチンの横にソファと低い台がある、カーペットスペースがあって、私たちの部屋は、そこでは靴を脱ぐルールを作った。

個人部屋も綺麗でとてもリラックスできた。窓が各部屋一つずつ付いていて、私は洗濯ひもを持って行ったので、乾燥した気候のため部屋干しができ、節約することができた。しかし、私の部屋は窓が閉まらなかったため、慣れるまでは寒さで寝つけなかった。シャワールームはトイレとシャワーの間がカーテンで仕切られていたが、部屋によっては、ドアが付いている部屋から何の仕切りもない部屋まであったようだ。トイレトペーパーはすでに一つ用意されていた。

壁が薄かったためリビングの声や隣の部屋の音楽が聞こえることもあった。その点、夜の行動には気を使った。

一週間に一回ほど、他の部屋に食べに行ったり、友達を呼んで一緒に夕飯を作って食べた。部屋もクラスも違うと、あまり関わりがない子もいたので、仲良くなるためには良い時間になったと思う。

4. 現地での生活全般について

イギリスに着いてまず最初に思ったのは、気温の低さだった。涼しいと聞いていたが、かなり寒かった。羽織るものというより、冬に着るパーカーやトレーナーを持っていけばよかったと思う。現地で冬用の服を三着購入した。

プレストンの治安についてだが、思っていたほどひどくなかった。運が良かったのか、ホームレスにお金や物をねだられることもなかった。逆に、道を聞いたら、その店まで連れて行ってくれたり、道端で挨拶してくれたり、ドアを私が通るまで開けてくれたり、とても親切な人が多くて安心できる街だった。夜は晩御飯を食べに行ったり、コンビニに行きたくなくても、21時頃まで明るかった。

現地では、イギリスの学生にとっても助けられ、彼らの存在はとても大きかった。最初の登校日には、学生達が歓迎会を開いてくれて、初日から打ち解けることができた。また、スポーツやご飯にも毎週誘ってくれたし、ショッピングモールも案内してくれた。私たちが帰国する前に、部屋でハリーポッター鑑賞しようとして誘ってくれる人もいた。彼らは、日本人学生がうまく英語を話せなくても、わかるように簡単な単語を使ってくれたり、ゆっくり話してくれた。私はここに、日本人との大きな違いを感じた。彼らは言葉が違うことをネガティブに考えず、積極的にコミュニケーションをとろうと努めてくれる。話せないから付き合わないのではなく、むしろ話せないからこそ早く仲良くなれるようにいろんな場所に誘ってくれた。私も、学園大学に留学に来ている海外学生に、もっと積極的にこちらから声をかけるべきだと、彼らに気づかされた。

5. プログラムに参加して、学んだこと、自分が得たもの、参加前の自分とどう変わったか等

日本へ帰国後に一番感じたのは、自分の思っていることや考えを、意見として積極的に他人に伝えることができるようになったことだ。以前は相手の機嫌をうかがって、少しでも批判されそうなことは言うのをやめていた。しかし、考え方はみな違うので、ぶつかることを怖がって発言しないのではなく、相手に自分の考えを理解してもらうため、また相手の気持ちも知るために、発言する大切さを学んだ。

また、時間がある限り、興味のあることに挑戦したいと強く思えるようになった。イギリス生活は、常に新しいものを見て、何かしら活動していたため、とても刺激的な毎日だった。しかし、日本は、便利な生活で、毎日を当たり前のように過ごして、特に考えて行動することがない。しかし、留学後は、今の時間ですることしたいと、以前より活発的に行動できている。企業調査や、英語学習も時間を決めてしており、無駄な時間が以前に比べて格別に減ったと感じる。

英語学習においても、大きな変化があった。3週間で語学力が急に伸びると思っていたが、英語学習に対しての意欲が格段に上がった。また、一つの英文を見た際、前までは”英語”という勉強という視点からしか見れず、後日同じ文を見ても思い出せなかった。しかし、今は、英文を見たら、それを使うシチュエーションまで想像したり、あの時こう言えば

よかったと、イギリス生活とつなぎ合わせて考えるようになったので、頭にすらすら入ってくるし、忘れにくくなった。英語を勉強としてではなく、コミュニケーションツールとして見ることができるようになった。今までも分かっていたことだと思っていたが、意思疎通の道具に過ぎないという本当の理由が分かったと思うし、それによって、語学学習により意欲がわいた。

6. プログラム全体に対する感想、反省

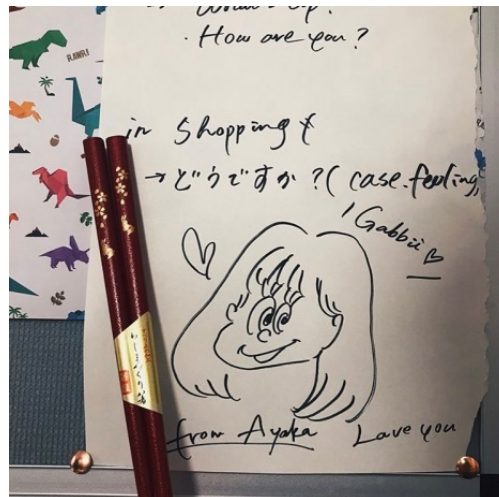
私は、今までずっと実家暮らしだったため、家族以外の人と共同生活することからとても刺激的で良い経験になった。無駄な時間が一切なく、メリハリのある濃い一か月を送ることができた。ただ興味があることや夢を、行動に移すことで、知りたいという意欲もより強くなるし、新しいことへの挑戦につながることを改めて感じた。このプログラムに参加して、考え方もポジティブになったし、行動力もついた。

反省点は、思ったよりも日本人と行動してしまったことだ。授業中と、何回か現地の学生とショッピングやご飯に行ったりした際には、一日中英語を使えたが、寮での生活や、日帰り旅行では、日本人とばかり話してしまった。せっかくイギリスに行ったのだから、もっと日本語から離れた生活ができたのではないかと思った。

一つ後悔しているのは、イギリスのナイトクラブに何度か誘われたが一度も行かなかったことだ。少し怖い気持ちがあり、行くのをためらってしまったが、実際行った友達は新しい友達もできて、そこでしか味わえない楽しさがあったと言っていた。

7. その他(写真の貼付も可)

イギリスの街で日本語や日本文化を目にすることが多々あった。向こうで”WASABI”という和食料理屋をよく見た。寿司をはじめとする和食が並んでいたが、日本のよりもカラフルで食材も違うものが使われていたりした。これを間違っていると批判的という意見を聞いたことがあったが、実際に見たら、異国の地で日本文化がある時点で、素晴らしいことだと思った。日本の物で、外国の人を喜ばせることができることに感動した。



街で目に入った日本語で面白かったのは、Super Dry という洋服のブランドが、ロゴの横に必ず使っていた日本語だ。上の写真がそれなのだが、Google 翻訳レベルの直訳で、なぜこの文字を使ったのか謎である。

イギリスで一番仲良くなった女の子に、日本から持って行った漆塗りの箸をプレゼントしたらとても喜んでくれた。また、彼女は日本語を専攻して学んでいたため、日本語を教えてそのノートに似顔絵を描いたら、それらを SNS にあげてくれて、些細なことで喜んでくれるし、仲良くなれたので、どの国でも贈り物は思いを伝えるのに良いものだなと思った。

8. イギリスに持って行った方がいい物、もしくは持って行く必要がなかった物について

持って行った方がいいもの

- ・ピーラー
- ・日本のお土産
- ・トレーナーor パーカー(冬用)
- ・洗濯紐
- ・ハンガー
- ・醤油
- ・折り畳み傘
- ・鼻セレブ
- ・帽子(ロンドン観光で日差しが強かったので被っていてよかった)

持って行かなくてよかったもの

- ・洗剤類
- ・雨がっぱ(5日目くらいから雨が降っても何も感じなくなった)

持って行かないほうが良いもの

- ・財布に普段入っているカード類(ポイントカード、免許証)
- ↑ 財布ごとなくなった韓国人学生がいた

9. 休暇のプランの立て方や行った場所など詳しく教えてください。

色んな地域に行くのもいいが、私はロンドンに3回行ったが、それでもまだまだ回りきれなかった。また、同じ都市に行くことで、地下鉄の使い方や、帰る時間、土地感覚への不安がなくなるので、最終日はとても効率的に観光することができた。

旅行初日は、イギリスに行く前からネットで調べていた、ビッグベン、大英博物館、そして、ハリーポッターで有名なキングス・クロス駅に行った。ハリーポッターの写真スポットに並ぶのに一時間ほどかかった。その後、大英博物館に行ったが広すぎて、すべて見て回る前に閉館時間になってしまった。

2回目の観光では、初日にすべてを見れなかった大英博物館にもう一度行った後、お土産を見て回った。Harrods というショッピングモールでお茶やお菓子、テディベアなどのお土産を買った。

3日目は早朝に出発して、バッキンガム宮殿の近衛兵の行進を見た。人の多さが想像以上で、行進を見に行くときは、特にスニーカーをお勧めする。その後、観光名所というより、イギリス人が昼からゆっくり会話しながらお酒を飲むような街をまわった。その街の雰囲気は、私が想像していたイギリスの街並みだったので、写真を撮たくさん撮ってよい思い出作りができた。私はチェキを持って行っており、そこで一番使ったと思う。

10. イギリスに持参した現金とクレジットカードで使用した金額はどれくらい？

私はクレジットを持って行かず、現金のみで3週間で過ごした。日本円で10万円分持って行き、£10(およそ1,500円)ほど残った。

カードがなくて困ったのは、飛行機で経由した香港空港で買い物ができなかった時と、宿舍の洗濯カードにお金をチャージするのにカードが必要だった時だ。洗濯カードの残金は、そのカードごとチャージができる子にあげて、私は新しいカードを買うしかなかった。

イギリス人学生寮でのパーティー



学校後のパブ

